

### 名古屋市水道第6期拡張ろ過池一部運転

中京経済圏の水需要に应付するため、施工中の本工事は水源を木曾川とし 408 000 m<sup>3</sup>/d を計画配水量とし、既設配水能力 542 000 m<sup>3</sup>/d と合せ完成後は 950 000 m<sup>3</sup>/d の配水能力とする取水場以下配水管に至る一連工事であり、昭和 35 年度より昭和 39 年度までの5ヵ年継続事業で総事業費 165 億円である。今までに 1 800 mm 導水鉄管布設工事と中川西配水場の1号配水池（有効貯水量 19 980 m<sup>3</sup>）を築造市内配水幹線の一部布設工事を完了した。

増大する水需要に应付するため、既設能力を最大限に發揮しながら大治浄水場構内に急速ろ過池を築造し、さる7月4日、6池を運転せしめたのでその概要はつぎの通りである。

1. 急速ろ過池 16池 工期 自昭和 37 年 12 月 21 日  
至昭和 38 年 11 月 30 日  
工費 526 520 000 円

重力式ホイラー型

32 池（内 16 池施工残り半施設引続き施工予定）

- 1 池ろ過面積 119.46 m<sup>2</sup>  
ろ過速度 標準 150 m/d  
1 池ろ過流量 標準 17 919 m<sup>3</sup>/d  
高架水槽 1 000 m<sup>3</sup>

2. 浄水場本館 工期 自昭和 38 年 3 月 22 日  
至昭和 39 年 6 月 30 日

工費 354 710 000 円

建築面積 1 444 m<sup>2</sup>

地階

塩素ポンペ室、工作室、ボイラー室、コンプレッサー室、冷凍機室、中和室、汚水ポンプ室、職員控室

1 階

塩素注入室、ピロティ、ホール、便所

2 階

電気室、バッテリー室、事務室、電話交換室、更衣室、便所、宿直室、倉庫

3 階

中央管理室、理化学実験室、事務室、工學室、準備室、培養室、生物試験室、控室

4 階

集会室、展示場、休憩室、便所

#### 3. 配水ポンプ所

工期 自昭和 38 年 1 月 7 日  
至昭和 38 年 12 月 15 日

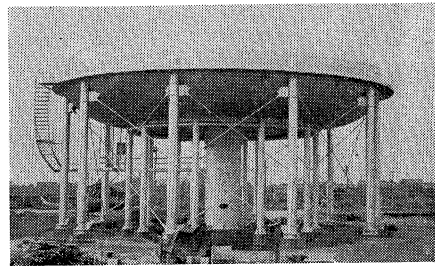
工費 315 050 000 円

建築面積 1 022 m<sup>2</sup>（下部ポンプ井、上部ポンプ室）

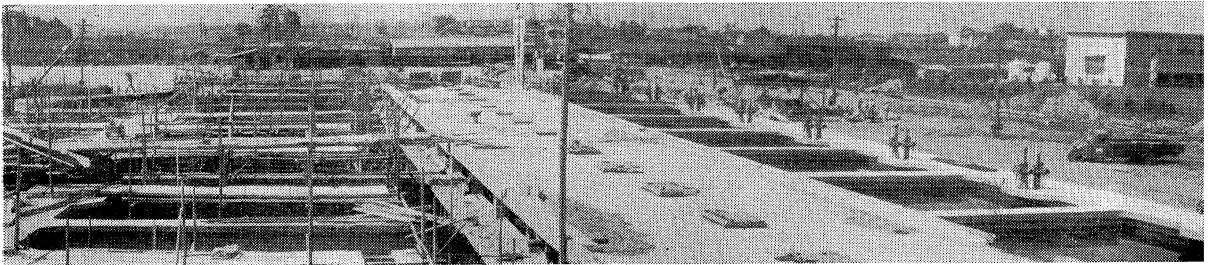
750 kW 電動機直結渦巻ポンプ 2 台 配水ポンプ

100 kW 電動機直結渦巻ポンプ 1 台 揚水ポンプ

#### 高架水槽



名古屋市水道第6期拡張大治浄水場急速ろ過池増設工事（右手前6池、38. 7. 4 運転開始）



### 新見発電所（岡山県）一部竣工

岡山県では、高梁川において治水、工業用水（水島工業地帯）および発電を目的とする高梁川総合開発事業の一環として、昭和 34 年 4 月以来工事をすすめてきた新見発電所工事は多目的河本ダムのゲートなどおよび貯水池に導水する横見取水設備を除き、このたび竣工したので、9月20日より最大出力 8 700 kW（全竣工時 10 900 kW）で、一部営業運転に入った。なお、横見取水設備は昭和 39 年 9 月完成の予定である。

設備の概要は、つぎのとおりである。ただし（ ）内は一部竣工時のものである。

河 川 名：高梁川水系西川

発 電 所 位 置：岡山県新見市金谷字堂ノ元73の1

発 電 力 (kW)：最大 10 900 (8 700) 常時 6 200 (800)

使用水量(m<sup>3</sup>/sec)：＼ 24.0 (24.0) ＼ 5.5 (3.7)

有 効 落 差 (m)：＼ 54.85(44.85) ＼ 39.10(39.20)

ダ ム：形式、可動扉付越流型中空重力式コンクリート

高さ 58.0 m 堤体積 215 900 m<sup>3</sup>

貯 水 池：満水面標高 225.0 m(215.0 m) 全容量 17 350 000 m<sup>3</sup> (10 398 000 m<sup>3</sup>) 有効容量 11 141 000 m<sup>3</sup>



## 新徳島火力発電所（四国電力 KK）

### 発電開始

四国電力KKが去る 36 年 1 月工事に着手した新徳島火力発電所はこのほど完成し 8 月 1 日より本格的に発電を開始した。本発電所は新産業都市の指定で、石油化学コンビナートや鉄鋼コンビナート造成地として脚光を浴びていゝ橋湾にのぞんだ埋立地（13 万 m<sup>2</sup>）の敷地に建設されたもので本館（高さ 28.69 m・延べ1582 m<sup>2</sup>）と 3 階建ての付属建物（300 m<sup>2</sup>）からなっており、岸壁には長さ 25 m と 20 m の棧橋があり 3000 t 級のタンカー 2 隻が同時に横づけできる。本発電所の特色は重油専焼方式を採用、1 万 t 入る重油タンク 2 基と 3500 t 入る原水タンク 1 基があり、またボイラ内の燃えぐあいをボイラ上部からテレビカメラで写し、中央制御室のテレビで受像できる。四国電力では近く第二期工事にとりかかる予定で最終計画は 80 万 kW の火力発電所とする予定である。

位 置：徳島県阿南市橋町大字幸町 106

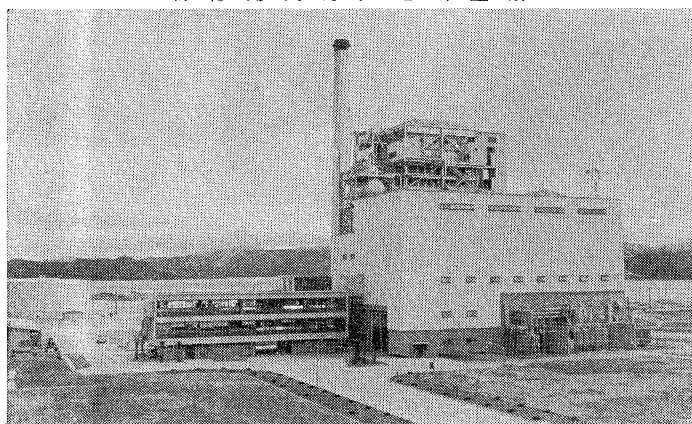
出 力：12 万 5000 kW

設計熱効率：37.2%

工 期：36 年 1 月～38 年 8 月

総 工 費：65 億円

### 新 徳 島 火 力 発 電 所 全 景



### 摩耶ふ頭第一突堤完成

神戸市と運輸省第三港湾建設局が昭和 34 年から工事をすすめている摩耶ふ頭の第一突堤と 2 つの公共上屋が完成し 8 月 29 日完工式が行なわれた。

完成した第一突堤は西側岸壁の長さ 588 m、東側岸壁 400 m、水深 10～12 m で、全工事が完成するのは昭和 40 年度である（本誌 47 巻 12 号ニュース参照）。また公共上屋 2 むねはともに鉄骨平屋建てで一むねの床面積

は 4420 m で 3000 t の貨物を収容できる。

### 横浜駅西口地下街・駐車場起工さる

横浜駅西口は、国鉄東海道線、京浜東北線、東京急行線、京浜急行線、相模鉄道線が発着する上、ここを中心として十数系統におよぶバス ターミナルを有しているため、付近に百貨店も建設されるなど近時急速に発展し、交通難、駐車難がとみに顕著となった。

このため、横浜駅西口広場を利用して、横断地下道、商店街、駐車場を有する近代的な総合地下街を建設することとなり、去る 8 月 7 日横浜地下街KK によって盛大な起工式が行なわれた。同施設の概要はつぎのとおりである。

建築面積	31 554 m <sup>2</sup>	地上階	421 m <sup>2</sup>
		地下 1 階	17 349 m <sup>2</sup>
		地下 2 階	13 784 m <sup>2</sup>
施 設			
地下 1 階	店 舗		10 088 m <sup>2</sup>
	店舗通路		2 066 m <sup>2</sup>
	都市計画街路(幅員 12 m ほか)		1 916 m <sup>2</sup>
地下 2 階	駐 車 場 (350 台収容)		5 743 m <sup>2</sup>
	車 路		5 118 m <sup>2</sup>
	休 憩 室		360 m <sup>2</sup>

### 構 造

鉄骨鉄筋コンクリート構造

出入口階段 13 カ所

駐車場避難階段 5 カ所

竣功予定 昭和 39 年 11 月

施 工 大 林 組

### 東京港の港湾整備計画

東京港の港湾整備は、明治 39 年に始められたが、1 万 t 級船舶のバースを現在 9 カ所保有しているが発着貨物量の急増にともないその拡張が望まれていた。東京港の港勢は今後ますます発展を続けてゆくことが予想されるので、昭和 36 年 3 月に港湾

整備 10 年計画が策定された。目標年度の昭和 45 年には、港湾貨物量は 4750 万 t（昭和 36 年 2560 万 t）に達するものと想定され、同時に 2240 万 m<sup>2</sup>（678 万坪）の新しい埋立地を造成する計画である。

この港湾整備計画においては、昭和 45 年の計画目標 4750 万 t を取り扱う港湾施設を整備するのみでなく、ぼう大な埋立地を過大都市東京の既成市街地内の交通体系整備、ならびに市街地再開発の一翼を担わせるべく有効利用をはかる計画である。埋立地の 46% は港湾機能



切がひとつもない立体交差構造として、高速度運転の安全性を高めた。すでに入居を開始した千里ニュータウンが完成したときには、日本一といわれるマンモス団地になり、これの通勤客輸送のために建設された。新千里山駅は大阪梅田駅より 28 分で行ける場所にある。

なお、本延長線の概要はつぎのとおりである。

- 工事延長：1.535 km (複線)
- 総工事費：10 億円 (改良工事もふくむ)
- ゲージ：1.435 m
- 最小曲線半径：350 m
- 最急勾配：35 ‰
- 軌道：レール 50 kg/m N 型, PS 型, AREA 型  
木まくら木, 砕石道床
- 路盤：切取, 盛土
- 停車場：新千里山, コンクリート高架ラーメン構造, 島式ホーム, 幅 4~7 m, 長さ 101 m
- 立体交差：跨線道路橋 3, 地下道 1, 架道橋 2
- 電車線路：架空単線式, 直流 1500 V
- 信号：3 色灯式自動閉そく信号機
- 所要時分：千里山~新千里山 2 分 30 秒
- 運転間隔：ラッシュ 3 分, 日中 5 分
- 連結両数：最大 4 両, 最小 3 両

### 身延山ロープウェイの開通

日蓮宗の総本山である身延山にロープウェイが建設され、8 月 23 日より久遠寺~奥の院間 1.5 km の運輸営業が開始された。

本ロープウェイの開通により、従来、老人、子供では困難であった奥の院参詣が容易となり、年々増加する参詣客に対し、大いに利用される施設となろう。

ロープウェイの方式は 3 線交走式であって、運転は全自動方式を採用し、その施設概要は下記のとおりである。

- 線路延長：斜長 1 664 m
- 高低差：762 m
- 最急勾配：33 度 15 分
- 支柱数：4 基
- 支索：ロックドコイル 直径 52 mm 2 本
- 曳索：ファイラーロープ 直径 24 mm 2 本
- 搬器：最大乗車人員 41 人, 自重 2 460 kg
- 原動機：3 相交流誘導電動機 出力 200 kW
- 運転速度：3.6 m/sec

### 海底に敷設される送水管

広島県江田島、能美島は飲料水に恵まれないため、本土からこれらの島へ飲料水を送ることになり、地元の江田島、大柿、能美、沖美の四町が江能上水道組合を設立、海底に送水管を敷設することになり去る 8 月 29 日起工式を行なった。本工事は呉市

天応町落走海岸から江田島町高須間 1.850 km に 200 m の送水管 (300 mm 口径) を 10 本つなぎ、39 年に完成の予定であるが、海底が 25~34 m のため相当の難工事が予想される。また本工事は広島県太田川の水を呉地区に導入する事業と合わせて行なうもので総工費は約 5 億円の子定である。

### 新興津川橋開通

新興津川橋は 1 級国道 1 号線 (東海道) の静岡県清水市興津町地内の興津川に架橋したものである。

現在の興津川橋は昭和 12 年に架けられた、橋長 211 m のコンクリートゲルバー桁で (スパン 20 m 9 連, 15.5 m 2 連) 幅員がせまく (7.3 m) また老朽がはなはだしいため昭和 33 年 6 月から年末にかけて大規模な補修工事を施したものであるが、近年の急激な交通量の増大にともない (1 日約 15 000 台) これをスムーズにさばききれず、1 級国道 1 号線の大動脈をいちじるしく阻害している。新橋はこの隘路を取り除くため、旧橋の下流約 70 m の地点に新設されたもので、橋長 271 m, 幅員 9.5 m (将来計画 14 m, 4 車線に拡張できる構造にしてある) の 3 径間連続鋼鈹桁橋である。工事は昭和 36 年 12 月に着工され、下部工は昭和 37 年 7 月末に竣工、さらに引続き橋桁の架設、床版工、高欄のすえつけ、橋面舗装、照明設備等を実施し、昭和 37 年末に完成を見た。

取付道路は延長 690 m で盛土量約 24 000 m<sup>3</sup>、橋梁 1 カ所 これらをふくめ約 1 年 9 ヶ月の才月と労務者 40 000 人を要して昭和 38 年 9 月 4 日開通した。

おもな工事概要はつぎのとおりである。

工 事 名	主 なる 内 容
下 部 工	橋 台 2 基 (扶壁式 RC 造)
	橋 脚 5 本 (圧気潜函基礎)
下 部 工	総 鋼 重 量 560 t
床 版 工	コンクリート量 640 m <sup>3</sup>
舗 装 工	舗 装 面 積 2 563 m <sup>2</sup>
照 明 設 備	ハイウェイ型 300 w 水銀灯 14 灯
取 付 道 路 改 良	盛土 24 000 m <sup>3</sup> 橋梁 1 カ所
” 舗 装	舗 装 面 積 8 250 m <sup>2</sup>

新興津橋全景

